

平成28年度

# 事業報告書



- 前 文
- ・ 法人 運 営
  - ・ 施設事業運営
  - ・ 地域との関連
  - ・ 会 計
  - ・ 添 付 書 類

社会福祉法人 正和会

# 平成28年度 事業報告書

社会福祉法人 **正和会**

## ★前文

小規模保育園の特性を活かしたきめ細かな保育と家庭的な雰囲気のある保育園という評価が定着し、ひめゆり保育園・てんじん保育園ともには地域でも大変に高い評価を得るようになってきている。また、てんじん保育園では今年度、第三者評価を実施したが、利用者アンケート調査では93%の保護者が「大変満足」「満足」と答えており、とてにも高い評価を得ることができた。

また、13年目を迎えたひめゆり保育園の子育てひろば事業「わくわくひめゆり」「よちよちひめゆり」は口コミや市報・パンフレット等によって地域に良く知れ渡るようになって、年間で330名を超える参加者数となった。

## 1. 法人運営

### (1) 実施事業

この法人は多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身共に健やかに育成されるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行いました。

#### ◆第二種社会福祉事業

1. 保育所 ひめゆり保育園の設置経営  
住所 東京都小平市天神町2-6-1  
定員等 0歳～2歳児 40名定員
  
2. 保育所 てんじん保育園の設置経営  
住所 東京都小平市天神町2-11-26  
定員等 0歳～5歳児 60名定員

### (2) 理事会

平成28年度は6回の理事会を開催した。

- ・5月27日 補正予算の承認、平成27年度事業報告及び決算報告、平成27年度会計監査結果の報告
- ・7月23日 東京都指導検査結果報告、定款細則及び経理規定の一部変更
- ・9月24日 定款変更の承認
- ・12月17日 補正予算の承認、評議員選任委員の任命
- ・2月25日 理事の選任、理事長の互選、監事の委嘱、評議員の承認
- ・3月26日 平成29年度事業計画及び事業予算の承認、就業規則の改正、

## 2. 施設事業運営

### (1) ひめゆり保育園

#### ア、児童在籍数

年齢	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	143
1歳	13	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
2歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
合計	40	41	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	503

#### イ、健康管理

##### 1. 健康診断

年間計画に沿って定期健康診断24回、および1回の新入園児健康診断を実施した。  
基本的に第2、4、5月曜日が実施日となっている。

0歳児の保護者には、ひと月に1回は受けていただくよう促し、実施日の少ない月は予めお伝えすることとしている。

##### 2. 歯科検診

6月と12月の2回の健診を実施した。

検診の結果 うさぎ組：0歳児 あひる組：1歳児 きりん組：2歳児

クラス	在籍者数	健診実施数	むし歯のない者	虫歯の本数			口腔清掃状況			沈着物	歯肉炎	不正咬合	その他
				むし歯所有者	未処置むし歯	処置済むし歯	良い	普通	悪い				
うさぎ6月	12	9	9	0	-	-	9						
12月	12	11	11	0	-	-	11						
あひる6月	15	14	14	0	-	-	14				開口1	融合歯1	
12月	15	15	15	0	-	-	15				開口1 反対咬合2		
きりん6月	15	15	15	0	-	-	15				開口2		
12月	15	14	14	0	-	-	14				開口2		

- ・ 昨年に引き続き、虫歯保有者はいなかった。口腔清掃状況も全員「良い」とされ、毎日の園での仕上げ磨きと家庭でのケアが効果を上げていると考えられる。
- ・ 仕上げ磨きの練習も0歳児では、最初、口を開けることを嫌がる児もいたが、一年を通して慣れ、終盤には全員嫌がることなくできた。
- ・ 0歳児：指吸いをしている児が12人中3人おり、今回、不正咬合は無かったが、今後見守る必要がある。
- ・ 1歳児：昨年度から第2, 3指の指吸いがなかなか止められない児がおり、反対咬合を指摘されていたが、それ以降、園だけでなく、家庭でもバイトブロックを使用するなど、指吸いを止められるように取組み、今年度治癒とされた。しかし、現在も指吸いは見られているため、継続して見守る必要がある。家庭と園双方で、指吸いを止められるようその都度、本人に声をかけている。月齢が進み、児も“いけないこと”と分かっているため、自分で指を外せるよう促している。0歳児から第1指の指吸いをしている児が、開口を指摘された。本児は、母が精神疾患に罹患しており、指吸いを防止するにも家庭での協力を得られにくい状況にある。児にとって指吸いが睡眠導入や精神安定のツールになっている様子もあるため、最終的には止めることが目標だが、慎重に対応している。また、指吸いはないが、反対咬合を指摘された児が2名いた。
- ・ 2歳児：0～1歳の間指吸いがあり、開口を指摘されていた児が今年度も指摘された。12月の検診以降、保護者も心配して、バイトブロックを使用し、徐々に効果が出ている。

### 3. ぎょう虫卵検査

文部科学省「学校保健安全法施行規則の一部改正等について」の通知にならい、平成27年度より中止。以来、ほけんだよりにて、保護者によりセルフチェックを促している。

### 4. 腸内細菌検査

4月・10月 の年2回全職員（パート、保育助手を含む）を対象に行った。

また、調理や調乳に携わる職員（0歳児担任、フリー保育士、調理室、主任、看護師）については毎月検査を行った。

結果は年間を通して 陰性 であった。

### 5. 職員検診

9～11月の3ヶ月間で「立川北口健診館」にて、全常勤職員対象に行なった。

生活習慣病健診対象者7名、法定健診対象者13名であった。

以下職員検診の結果

#### 身体測定

数名やせ気味の指摘があったが、急激なやせであったり、病的なものではないため、該当者に声をかけつつ様子観察としている。

#### 血液検査

脂質代謝異常1名→かかりつけ医で再検査施行、経過観察中。内服治療をするか検討中とのこと。

他、肝機能や貧血などに多少の指摘がある職員もいたが、若干の異常値であり、再検査等を要するものはなかった。

## 上部消化管検査

胃小彎部の異常1名→近医にて精密検査を受けた。逆流性食道炎との診断で、内服は現段階では不要、生活指導を受けたとのこと。

子宮がん検診について、法定健診者も、協会健保の補助と園の補助により、定期的に受診することができ、子宮頸がん検診を積極的に受ける事ができ、計5名（2名は補助対象の該当年度ではなかったためオプションとして受診）、全員異常なしであった。その他、概ね健康状態は良好であった。

年度初めには、新入職者でめまい症の診断受け、自宅療養となったケースがあったが、安静と内服治療で回復し、定期検診の際には治癒していた。雇入れ時健診も上記施設で実施した。

## 6. ほけんだより

年間で14回の保健だよりを発行した。

## 7. 保健指導

4月：うさぎ組クラス懇談会にて「新入園児の健康管理について」PPを用いて説明した。

6月：歯科検診にて手作りエプロンシアターを実施した。「トトロの虫歯になったらどうしよう」と題して、虫歯予防・歯磨き指導を行った。

8月：職員向け「溺水事故防止」「夏の感染症」「熱中症対策」についてレジュメを配り、お話しした。

10月：きりん組クラス懇談会にて「卒園後の生活リズムについて」PPを用いて説明した。

12月：歯科検診にてエプロンシアターを実施した。「カバ君の歯磨き上手にできるかな」と題して、虫歯予防・歯磨き指導を行った。

感染性胃腸炎流行期に合わせて、新入職員及び希望者を対象に、吐物処理の実演練習した。

3月：新年度0歳児担任及び希望者を対象に、乳幼児突然死症候群の予防への取り組みについて、一次救命の実演練習をした。心肺蘇生は演習用の人形を、AEDは演習用機材を用い、より実践的に行った。

## 8. ひめゆり広場事業での保健活動

ひゆり広場事業は、「よちよちひめゆり」を0歳から1.5歳児（歩行が安定してできるようにまで、「わくわくひめゆり」を1.5歳から就園前まで対象として、ひと月に1回ずつ実施した。

在園児に感染症が発生した場合、広場事業の実施について検討することとしており、今年は、6月は風疹と水痘、1月はインフルエンザと感染性胃腸炎が発生したため、「よちよちひめゆり」は2回中止した。

保健活動としては、身体測定や主に健康発達に関する育児相談を行った。また、ミニ講座を3回担当し、9月「予防接種について」、11月「スキンケアについて、」2月「応急手当について」を保護者向けにお話した。

## 9. 内服薬与薬状況

### <うさぎ>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
風邪薬	3	3	12	13	33	19	19	10	16	6	15	5
整腸剤				1		2						
中耳炎	1		5	4			5				3	
保湿剤	4	26	35	2		1	3	10	6	23	33	3
その他					4	4				6	1	
<b>総数</b>	<b>8</b>	<b>29</b>	<b>52</b>	<b>20</b>	<b>37</b>	<b>26</b>	<b>27</b>	<b>20</b>	<b>22</b>	<b>35</b>	<b>52</b>	<b>8</b>

### <あひる>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
風邪薬	8	11	5	10	10	8	8	11	18	4	5	
整腸剤				2					2			
中耳炎	2			7	2	15	17		8			
保湿剤									6	15	15	14
その他				1								
<b>総数</b>	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>5</b>	<b>20</b>	<b>12</b>	<b>23</b>	<b>25</b>	<b>11</b>	<b>34</b>	<b>19</b>	<b>20</b>	<b>14</b>

### <きりん>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
風邪薬	7	8	6	4	11	8	28	19	19	4	1	9
整腸剤			2	4								
中耳炎			1	4	3							
保湿剤	2	14							7		13	4
その他	17				1		2			16		1
<b>総数</b>	<b>26</b>	<b>22</b>	<b>9</b>	<b>12</b>	<b>15</b>	<b>8</b>	<b>30</b>	<b>19</b>	<b>26</b>	<b>20</b>	<b>14</b>	<b>14</b>

### <総数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
風邪薬	18	22	23	27	54	35	55	40	53	14	21	14
整腸剤			2	7		2			2			
中耳炎	5		6	15	5	15	22		8		3	
保湿剤	6	40	35	2		1	3	10	19	38	61	21
その他	17			1	5	4	2			22	1	1
<b>総数</b>	<b>46</b>	<b>62</b>	<b>66</b>	<b>52</b>	<b>64</b>	<b>57</b>	<b>82</b>	<b>50</b>	<b>82</b>	<b>74</b>	<b>86</b>	<b>36</b>

【投薬に関する特記事項】

ア) うさぎ組：

- ・ 保育中に熱性けいれん（初発）を起こした児が、医師の指示と保護者の要望によりダイアップ預かりとなり、発熱 37.5℃以上で使用した。投薬後、30分ほどでふらつきが見られ、転倒等に注意した。
- ・ 皮膚の脆弱な児が複数名おり、断続的に保湿剤を塗布した。
- ・ 下痢の続いていた 8 か月の児、二次性の乳糖不耐症の疑いとのことでガラクターゼをミルクの都度ミルクに溶解して内服した。

イ) あひる組：

- ・ 自宅で熱性けいれん（初発）を起こした児が、医師の指示と保護者の要望によりダイアップ預かりとなり、発熱 37.5℃以上で使用した。
- ・ アトピー性皮膚炎の児、断続的に保湿剤を塗布した。休日を挟むと症状が悪化する傾向があり、園で平日に塗布して改善しても、週明けは悪化しているというサイクルを繰り返した。

ウ) きりん組：

- ・ 皮膚が脆弱な児がおり、断続的に保湿剤を塗布した。

投薬件数が、昨年の239件から757件と3倍以上に増えた。うさぎ組で風邪薬が慢性的に多かったこと、あひる組でアトピー性皮膚炎の児に毎日保湿剤を塗布していたことが影響したと考えられる。うさぎ組は、第1子が多いためか、受診行動が早く、その度に症状が軽度でも風邪薬が処方され、依頼される傾向があった。また、保護者の仕事が多忙であったり、ひとり親であるなどの事情から、保育園を休まないで済むように軽症のうち受診をして内服治療を始めるケースも多かった。

また、預かりに関して、ルールを守らずに安易に投薬を依頼されるケースも多かった。預かり薬について、園内で検討した結果、平成29年度より、医師の指示書のある薬に限りお預かりして投薬することとした。

10. 病気欠席状況

(1) 病気欠席延べ日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
うさぎ組	19	15	29	43	9	28	30	15	19	24	12	6	249
あひる組	16	17	11	18	22	19	18	13	3	22	12	6	177
きりん組	5	5	10	13	25	9	5	7	24	8	7	2	120

(2) 疾患別罹患人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発熱	9	10	13	17	11	16	16	12	10	4	7	9
風邪	2	1		1	2		1	1			3	2
下痢・嘔吐	2		2	8		4	3	2	3	7	2	2
中耳炎			2						1		1	
咳	5		1	9	5	1	4	5	3	2	4	
肺炎				2	1							
ヘルパンギーナ				3								
水痘												
溶連菌				2						2		
アデノウイルス						1						
皮膚					1	1					2	1
眼疾患				1	1							
インフルエンザA										4		
その他			1	2	3	4	3	1	2	3	1	
合計	18	11	19	45	24	23	27	21	19	22	20	14

#### <感染症など>

- ・感染性腸炎：0歳児で、7月と1月に感染性胃腸炎が流行し、両月ともクラスの半数が罹患した。1月の罹患者のうち1名は脱水症を併発し、入院した（本例ではノロウイルスと確定している）。いずれも、嘔吐・下痢の症状で受診しても感染性のものであるという情報が医師から伝えられていないケースが多く、症状が治まる前に登園し、感染が拡大するということが起きた。
- ・風疹：6月に2歳児が1名罹患した。佐渡へ社員旅行に行った直後に発熱していた。園で発熱したのが、土曜日の夕方他に預かりの児がほとんどおらず、感染者は出なかった。保護者および職員に妊娠初期の者がおり、感染防止に注意した。
- ・肺炎：0歳児、2歳児（マイコプラズマ肺炎、ウイルス性肺炎）に罹患者が出たが、いずれも単発で、感染の拡大はなかった。
- ・ヘルパンギーナ：1歳児で7月に3名の罹患者があったが、いずれも軽症ですぐに登園していたが、拡大しなかった。
- ・インフルエンザA：計4名の罹患者。うち2名は姉弟関係であった。

感染症については診断が下りた時点で、園内に情報を掲示し、注意喚起を行った。

また、今年度は、多摩地区で麻疹患者が確認されたことから、園内に情報を掲示し、不要な外出等控えていただくよう注意喚起を行った。

登園時の発病は発熱が多く、ついで嘔吐であった。別室に隔離し、感染拡大を予防しつつ保護者のお迎えを待つ体制を取った。



### 1 1. 怪我等への対応

擦り傷、切り傷、打撲、鼻出血、眼に砂が入った等、軽症のものは日常的にあったが、それぞれ、洗浄、止血、ワセリン塗布、冷却等の対応を行った。  
また、傷の程度が深い、打ちどころが悪い等により病院を受診した。

#### 【受診件数】

うさぎ組 8件 (再診4回)  
あひる組 3件  
きりん組 1件 計12件

### 1 2. 食物アレルギー対応

現在アレルギー児、0歳児女児1名。乳・卵アレルギーの診断。栄養士、担任と共にAL面談を実施、アレジオンDS0.4gをお預かりし、アレルギーと接触があった際に、内服させることとなった。

### 1 3. 巡回相談

保育の中で、発達等に気になる児がいた際、年に3回6、9、3月に、あおぞら福祉センターより専門家が派遣され、午前中該当児の様子を見ていただき、対応についてカンファレンスをおこなった。

6、9月は2歳児2名ずつ。3月は1歳児2名の指導をお願いした。対応や保育に取り入れていくと良いことなどアドバイスを受けた。

## ウ、栄養管理

栄養士が積極的に栄養指導を行うとともに、子どもたちの健康状態を把握しながらバランスの良い献立作成に取り組み、献立を元に給食を提供することが出来た。

献立には季節を感じられるよう、旬の食材を取り入れ、栽培・収穫等の体験を通して食材に見て、触れる活動や、食材を媒体とした製作も行った。

食育の一環として、栄養素・食材の効能等をレシピ・おたより等を保護者対象に配布し、興味関心を持ってもらえるよう務めた。

### 1. 離乳食

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ゴックン期	5	3	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0
モグモグ期	1	3	2	2	1	0	2	2	0	0	0	0
カミカミ期	4	4	5	5	4	3	2	0	2	2	2	0
パクパク期	0	0	2	3	5	7	8	10	10	10	10	12

離乳食全般については、子どもひとりひとりの発達・喫食状況に合わせ、細かい対応を行った。期が上がる際には、保護者・担任・栄養士で離乳食面談を実施し、家庭・クラスと連携を図りながら、固さ・大きさ等調理形態に十分留意し、食事を提供すること

が出来た。

## 2. 乳児食

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
普通食	41	41	41	41	41	40	41	41	41	41	41	41
特別食	0	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1

アレルギーによる除去食の希望が1名・その他1名（乳糖不耐症）がおり、年間を通してトレーを使用する等、個別に対応を行った。

献立表に除去（または代替）内容を記載して保護者に配布し、同時に職員間でも情報の共有に努め、安全に食事提供を行った。

## エ、保 育 内 容

保育支援総合システム『はぐくむ保育』の活用により、年間指導計画→月間指導計画→日週案指導計画と連動した保育の実践が可能となるとともに、保育日誌・保健日誌・施設日誌・児童票・事故報告書等が連動する事で、保育事務の合理化・簡素化が可能となった。

カリキュラム会議は全職員が参加できるよう実施し、個々人の発達・成長を共有し共通理解の下に保育を行なうことが出来た。

## オ、安 全 管 理

玄関下駄箱、すのこの劣化が進み、木片の剥がれ等により指を怪我する恐れがあったため、備品の入替え・改修を行なった。

保育室の引き戸のレール・タイヤに劣化が見られ、人の出入りに影響が見られ始めたため、建具改繕を行なった。

## キ、職 員 の 処 遇

### (1) 健 康 管 理

腸内細菌検査、健康診断、胸部レントゲン撮影など、すべて計画通りに実施し、35歳以上の職員7名が立川北口健診館において生活習慣病検診を受診、それ以外の職員も立川北口健診館で定期検診を受診した。

### (2) 職 員 会 議

各月職員会議を1回とカリキュラム会議を1回の合計24回の全体会議を実施した。ほかにクラス単位のミーティングを数回、カリキュラム打ち合わせ会を多数実施した。

### (3) 研 修 報 告

別紙『研修会参加一覧表』にあるように東社協、東京民保協などの保育団体が主催する研修を中心に多数の研修会に参加するとともに、てんじん保育園と合同で3回の園内研修を行い保育技術と知識の向上を図った。

また、新たに採用された職員も順次『上級救命講習』を受講すると共に、新たに3名が『おもちゃインストラクター』の資格講習を受講し認定を得た。

#### (4) 福 利 厚 生

本年も福利厚生センターに加入して、個々の職員がセンターの事業を活用するとともに、てんじん保育園と合同の職員親睦会としてアンバサダーホテルにて会食を行い両園の親睦を深めた。また、歓送迎会への補助などを行った。

### 3、地域社会との関連

子育てひろば『わくわくひめゆり』と『よちよちひめゆり』の計画をし、実施した。わくわくひめゆりを9回、よちよちひめゆりを7回実施した。よちよちひめゆりは計9回を計画したが、実施日付近の園内の状況（風疹発症、胃腸炎の広がり）を受けて内2回は中止の判断をした。計16回の子育て広場事業の実施で、延べ207組の親子が参加した。

また園庭開放は42回実施し、延べ121組の親子の利用があった。雨天のため中止とした日は4日あった。

#### ア、保育実習生の受け入れ

今年度は、ひめゆり保育園において保育養成校からの保育園実習生が3校から5名の受け入れを行なった。

#### イ、中学・高校生の職場体験・職業体験の受け入れ

今年度はひめゆり保育園において小平市立小平第六中学校の生徒4名、小平第三中学校の生徒6名、西東京市立田無第一中学校の生徒3名、都立府中高等学校の生徒2名、都立田無高等学校の生徒1名、都立東村山高等学校の生徒1名を職場体験として受け入れた。

また、夏休み期間には小平市社会福祉協議会の主催する『夏！体験ボランティア』の事業に協働し、ひめゆり保育園では2名の中学生が延べ7日間にわたり保育ボランティア体験を行なった。

## (2) てんじん保育園

### ア、児童在籍数

年齢	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
1歳	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
2歳	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
3歳	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
4歳	11	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
5歳	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
合計	60	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	744

### イ、健康管理

#### 1、健康診断

毎月第1月曜日を健診日とした。

乳児健診は毎月行った。休んでしまった場合は、ひめゆり保育園で健診を実施した。

1歳児は0歳児とともに毎月健診を行った。

いるか組…4月6月8月10月12月2月

くじら組…5月7月9月11月1月

年2回以上の健診を行うことができた。

#### 2、歯科検診

6月・12月と2回実施した。

未処置むし歯のある児が6月は2歳児、3歳児に各1名、12月は4歳児、5歳児に各1名いた。

#### 3、視力測定

8月（5歳児）・11月（4歳児）・1月（3歳児）個別に練習を行い、測定を実施した。

#### 4、腸内細菌検査

4月・10月の年2回全職員（パート、保育助手を含む）を対象に行った。

また、調理や調乳に携わる職員（0歳児担任、フリー、調理室、主任、看護師）については毎月検査を行った。

結果は年間を通して「陰性」であった。

#### 5、職員健診

全職員の健康診断を「立川北口健診館」にて行なった。

生活習慣病健診対象は7名。法定健診対象者（35歳以下）は10名。

また、がん検診なども受けられるように設定したことで、各職員が自分の健康に関心をもてたのではないかと思う。健診は10～12月に行った。

入職した職員については、雇入れ時の健診を行った。

#### 6・保健だより

年間で14回の保健だよりを発行した。

## 7、保健指導

- 4月 手洗い・うがい（爪の話）（くじら組）
- 5月 うんちの話（くじら組）
- 6月 歯磨き（5歳児：6歳臼歯について）（くじら組）
- 7月 プールのお約束（いるか・くじら組）
- 9月 排便の後始末（4歳児のみ）
- 10月 手洗い・うがい（くじら組）
- 11月 咳エチケット（くじら組）
- 12月 鼻かみの方法（くじら組）
- ※職員に対して
- 4月 エピペンの使い方

## 8、内服薬と薬状況

内服は中耳炎1件、気管支炎・副鼻腔炎1件、溶連菌感染症3件であった。  
 外用は保湿剤塗布1件であった。  
 食物アレルギー対応での内服・エピペンの預かりが1件あった。

## 9、巡回相談

6月・9月・1月の計3回、あおぞら福祉センターより先生に来て頂き、気になる行動のある児の対応について話し合いを行い、アドバイスを頂いた。

## 10、感染症及び病欠欠席状況

0歳児(6人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
呼吸器症状 (熱・風邪等)		4	6	4	4	5	2	6	2	2	1	
腹部症状(下痢・嘔吐)			2			1			4	1		
耳症状(中耳炎)		1			1							
眼症状(結膜炎・眼脂)				1								
突発性発疹	1		1									
マイコプラズマ肺炎	1											
RSウイルス						2						
咽頭結膜炎		1										
インフルエンザA										1		

1歳児(10人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
呼吸器症状 (熱・風邪等)		2	6	3	4	8		6	3			1
腹部症状(下痢・嘔吐)				2		1			2	2		
耳症状(中耳炎)						1						

眼症状（結膜炎・眼脂）				1								
皮膚症状（蕁麻疹）					1							
突発性発疹			1									
RSウイルス						4						
咽頭結膜炎	2											
手足口病					1							
ヘルパンギーナ					1							

## 2歳児（11人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
呼吸器症状（熱・風邪等）		1	4	6	7	6	3	6	3	2		
腹部症状（下痢・嘔吐）									1			1
耳症状（中耳炎）				1	1				1			
眼症状（結膜炎・眼脂）				1								
皮膚症状（蕁麻疹）												
RSウイルス						1						
溶連菌感染症								1	1			4
ヘルパンギーナ					1							

## 3歳児（11人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
呼吸器症状（熱・風邪等）		3	2	1	3	5	1	5		1	2	
腹部症状（下痢・嘔吐）					2	1	1	1	1		1	1
耳症状（中耳炎）			1	1								
皮膚症状（蕁麻疹）										1		
溶連菌感染症								1		1	1	2
ヘルパンギーナ					1							
インフルエンザA										1		
伝染性膿痂疹												1

4 歳児 (13 人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
呼吸器症状 (熱・風邪等)			2	3	1	1	2	2	4	3	1	
腹部症状 (下痢・嘔吐)						2		1	4	3		
溶連菌感染症									3	3		
ヘルパンギーナ					1							

5 歳児 (11 人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
呼吸器症状 (熱・風邪等)				2		2	1	2	1		1	
腹部症状 (下痢・嘔吐)						1			5	1		
耳症状 (中耳炎)							1					
溶連菌感染症								1	1	1		
伝染性膿痂疹												2
頭じらみ								1				

<入院加療>

- ・ 0 歳児：9 月、RS ウイルス感染症にて昭和病院に入院する。

<怪我・通院>

- ・ 1 歳児：9 月、保育室内で転倒し、右第一中足骨にひびが入る。山之内整形外科を受診し加療する。
- ・ 3 歳児：12 月、遊歩道で転倒し、左額に腫脹あり。あかしや脳神経外科を受診し経過観察となる。
- ・ 5 歳児：1 月、公園の遊具にぶつかり、右下唇が切れ出血あり。河野歯科医院を受診し抗菌剤を処方され、経過観察となる。

<感染症まとめ>

- ・ 今年、夏に流行する手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性膿痂疹に罹る児が少なかった。
- ・ 11 月から幼児クラスで溶連菌感染症が多くみられた。
- ・ インフルエンザの予防接種は、全園児 62 名中、39 名が実施していた。A 型に 2 名が罹患した。職員は全員が予防接種を実施し、A 型に 1 名罹患した。

## ウ、栄養管理

栄養士が積極的に栄養指導を行うとともに、離乳食についても細やかな対応ができた。アレルギー児が 2 名おり、1 名は卵のみの除去食で個別の対応を行った。もう 1 名は複数の重度なアレルギーを持っていた為、保護者との話し合いの結果、昼食はお弁当、補食は袋菓子か持参のおやつで対応し、行事の時などはさらに特別に対応した。

・喫食人数(離乳食など)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
離乳食(初期)	1											
離乳食(中期)	3	3	1									
離乳食(後期)	2	2	4	4	1	1	1					
完了食	56	57	57	58	61	61	61	62	62	62	62	62

離乳食面談は各期へ上がるごとに行った。保護者や保育士と話し合い、子供の状況に沿って進めた。

・食育について

主にくじら組(4・5歳児で行なった)

	内容	ねらい	主な作業
4月			
5月	筍の皮むき体験  箸の使い方(定期)	旬の食材・形状を知る。 五感で感じる力をつちかう。  箸のマナーを身に付ける。	たけのこの皮をむいてもらう。 たけのこについて気が付いたことを発表しあう。 昼食時、箸を使って食事をする。
6月	そら豆を知ろう  正しい手洗いの定着	農作物に興味を持たせる  手作りみそにむけての導入	そら豆のさやから豆を取り出す。 さやの中の手触りなどを体験する。 クラスに貼られたプリントを見て正しい手洗いを覚える。
7月	とうもろこしの皮むき体験	旬の食材・形状を知る。	とうもろこしの皮をむいてもらう。 とうもろこしについて気が付いたことを発表しあう。
8月			
9月	手作りみそ体験 ※1月の豚汁で使用	豆の変化を知る。 日本古来のスローフードを学ぶ。	大豆を潰し、麴と混ぜ合わせ味噌玉を作る。
10月			
11月			
12月	クリスマスクッキー作り	みんなの為にオヤツを作り、感謝される喜びを味わう。 自分たちが食べている食べ物に興味を持ち、作る喜びを知る。	1人ずつ用意されたクッキー生地から型抜きをする。 シュガーでデコレーションする。
1月	餅つき体験  豚汁 ※手作りみそ使用	伝統行事を体験し、お正月を楽しむ。 手作りみそを味わい、食材の変化の不思議を感じる。	保育士と一緒に餅つきをする。 豚汁を通じて、手作り味噌を味わう。
2月			
3月			



## エ、保 育 内 容

保育支援総合システム『はぐくむ保育』の活用により、年間指導計画→月間指導計画→日週案指導計画と連動した保育の実践が可能となるとともに、保育日誌・保健日誌・施設日誌・児童票・事故報告書等が連動する事で、保育事務の合理化・簡素化が可能となった。

## オ、安 全 管 理

園庭の避難滑り台の底部が角ばっており、大人が頭をぶつけてケガする危険があったので、防護ゴムを取り付けた。

## キ、職 員 の 処 遇

### (1) 健 康 管 理

腸内細菌検査、寄生虫検査、健康診断、胸部レントゲン撮影など、すべて計画通りに実施し、35歳以上は立川北口健診館において生活習慣病検診を受診、それ以外の職員も立川北口健診館で定期検診を受診した。

### (2) 職 員 会 議

各月職員会議を1回とカリキュラム会議を1回の合計24回の全体会議を実施した。ほかにクラス単位のミーティングを数回、カリキュラム打ち合わせ会を多数実施した。

### (3) 研 修 報 告

別紙『研修会参加一覧表』にあるように東社協、東京民保協などの保育団体が主催する研修を中心に多数の研修会に参加するとともに、ひめゆり保育園と合同で3回の園内研修を行い保育技術と知識の向上を図った。

また、新たに採用された職員も順次『上級救命講習』を受講すると共に、新たに2名が『おもちゃインストラクター』の資格講習を受講し認定を得た。

### (4) 福 利 厚 生

本年も福利厚生センターに加入して、個々の職員がセンターの事業を活用するとともに、ひめゆり保育園と合同の職員親睦会を行って両園の親睦を深めた。また、歓送迎会への補助などを行った。

### 3, 地域社会との関連

育児相談、発育相談、Eメール育児相談など述べ3回の相談事業を実施した。

ひめゆり保育園においては、子育てひろば『わくわくひめゆり』と『よちよちひめゆり』を各年10回ずつ実施し、延べ314組の親子が参加した。

また園庭開放は38回実施し、延べ206組の親子の利用があった。

本年も理事長が小平市立第七小学校の「学校経営協議会委員」として学校経営に携わるとともに、保小連携のための方策について学校長と懇談した。

#### ア、保育実習生の受け入れ

今年度は、ひめゆり保育園において保育養成校からの保育園実習生が4校から述べ8名の受け入れを行ない、てんじん保育園でも保育園実習生6名の受け入れを行った。

#### イ、中学・高校生の職場体験・職業体験の受け入れ

今年度はひめゆり保育園において小平市立小平第六中学校の生徒6名、小平第三中学校の生徒6名を職場体験として受け入れ、てんじん保育園では小平第八小学校の六年生2名を「職場体験」として受け入れた。

さらに、小平第六中学校3年生の家庭科授業の一環として、2クラス（述75名）の児童が手作りおもちゃを持って来園し、児童との『保育実習』を行った。

また、夏休み期間には小平市社会福祉協議会の主催する『夏！体験ボランティア』の事業に協働し、両園で8名の中学生・高校生が延べ84日間にわたり保育ボランティア体験を行なった。

### 5, 会 計

橋詰会計事務所による会計指導のもと、公正・透明な会計業務を心掛けた。  
別紙決算書の通りである。

### 6, 添 付 書 類

資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、